

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28105 プログラム名 キュレーター（学芸員）のしごと

～日本画の魅力と作品保存の科学～



開催日：平成28年8月4日(木)

実施機関：東海大学

(実施場所) (松前記念館講堂及び展示室)

実施代表者：篠原聡

(所属・職名) (課程資格教育センター・准教授)

受講生：中学11名・高校生4名

関連URL：[http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post\\_526.html](http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_526.html)

### 【実施内容】

博物館や美術館で働くキュレーター(学芸員)の仕事を「発見・体験」してみよう—日本の伝統的な美術と触れ合いながら、日本画の魅力や文化財を守り伝える学芸員の仕事を体験的に学ぶプログラムです。

#### 1. プログラムの実施で留意、工夫した点

プログラムは講義と実習2部構成とし、講義を受けてから実習に参加することで体験学習の学びを深めるとともに、講義にも参加体験型のプログラム等を組み込み、受講生の関心や集中力を持続できるように工夫しました。午前中の講義では、学芸員の仕事の魅力や研究成果をわかりやすく伝えるために、写真イメージだけでなく実際に絵画作品を用いて、美術について受講生とともに考える場を設けた他、「虫眼鏡で博物館内虫探し」などの参加体験型プログラムを交えながら、近年注目を集めている作品保存の科学(文化財IPM)の考え方をわかりやすく紹介しました。また、松永記念館の学芸員・中村暢子氏による日本画(掛軸)の取り扱い方の実演を導入し、受講生が体験的に学べるように工夫しました。午後の実習では、藤沢市アートスペースの学芸員・小林絵美子氏を実技担当者として招き、受講生への肌理の細かい指導ができるように配慮したほか、三井記念美術館の教育普及担当・亀井愛氏に「日本画の絵具の話」をしてもらい、日本画についてより身近に知ってもらえる場を設けました。また時間内に豆うちわを完成できるように、画材等の事前準備にも配慮し、事前に受講生に連絡して描く題材をあらかじめ用意してもらいました。

#### 2. 当日のスケジュール

- 10:00-10:30 受付
- 10:30-10:45 開講式(あいさつ、科研費の説明、オリエンテーション)
- 10:45-12:35 午前の部 講義「学芸員の仕事を体験しよう!!」  
学芸員(研究者)による特別講義の後、参加体験型プログラム①②③を実施しました
- 12:35-13:35 (お昼休み) ※学芸員や研究者、学生と一緒にお昼を食べました
- 13:35-15:30 午後の部 実習「日本画にチャレンジ!!」  
日本画家による解説・実演の後、受講生が豆うちわに日本画を描きました
- 15:30-15:40 (休憩)
- 15:40-16:00 クッキータイム(研究者や学芸員と討論、質疑応答)
- 16:00-16:30 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、写真撮影)
- 16:30-17:00 ※希望者のみ松前記念館のバックヤードツアーを実施しました

### 3. 実施の様子

#### 午前中の講義 ～ 参加体験型プログラム



科研費の説明(研究支援課・土屋歩美氏)



講義風景



展示環境の清浄度テスト



掛軸の取り扱い方(学芸員・中村暢子氏)



現代日本画の作品も鑑賞



実体顕微鏡で虫観察

#### 午後の実習 ～ 修了式・記念撮影



日本画の絵具の話(教育普及担当・亀井愛氏)



日本画の実演(学芸員・小林絵美子氏)



豆うちわに日本画を描く



初めての日本画体験



朝倉徹所長より未来博士号授与



最後に全員で記念撮影

午前中の講義では、キュレーター(学芸員)や研究者(美術史)の仕事、「探偵」や「医者」に例えながら、参加体験型プログラム等も交えつつ、わかりやすく紹介しました。午後の実習では、日本画の特徴や岩絵具、膠(にかわ:動物の骨や皮でつくられる接着剤)など、日本画の絵具の説明や、日本画の描き方の実演の後、受講生には豆うちわ(持ち帰り可)に日本画を描いてもらい、創作を通して日本画の魅力に迫りました。自ら手を動かすことによる表現の楽しさが、受講者個々の「達成感」や「作品への愛着」の姿勢を育むことにつながったと手ごたえを感じています。プログラム全体を通して、子どもたちが、普段あまり接する機会のない日本画の魅力や、モノを守り伝える学芸員の仕事の一端を実感する有意義な機会になったと考えます。



#### 4. 事務局との協力体制

事務局で委託費の管理や支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正等を行っていただきました。また、物品購入、協力者・アルバイト学生への謝金、受講生の保険加入等の事務手続き、学内関連部署との連絡調整、会場の設営、アンケート集計などの協力を得ました。

#### 5. 広報活動

事務局と連携し、近隣の小中学校を中心にチラシ・ポスターを配布しました。また大学の一貫教育課や広報課とも連携し、付属学校や学内博物館施設へのチラシ・ポスターの配布、掲示、大学 HP への募集案内の掲載を行い、後日、プログラムの実施報告も大学 HP に掲載しました。近隣の中学校教員にも周知し、実際に美術科の教員 1 名が引率の立場で参加してくれました。

#### 6. 安全配慮

本プログラムの内容では、受講生に危険がおよぶ場面は想定しにくいと考えていましたが、万全を期すべく、安全面における具体的な配慮・対策として、参加体験型プログラムにおいて適宜、ゴム手袋等の着用等を受講生に促しました。また、受講生、協力者、アルバイトについては、大学側で傷害保険に加入いたしました。

#### 7. 今後の発展性、課題について

「生まれてはじめて岩絵具を使って絵を描いてワクワクした」「あまり体験したことがない日本画を描くとき使う絵の具を使ってうちわを作らせてもらえ、とても楽しかったです」「岩絵具で絵を描くという貴重な体験ができてとてもおもしろかったです」「仕事を実際に体験できるのが楽しかったし興味もわいた」などが受講生のアンケートの主な感想です。アンケート結果から、参加者(中学生、高校生、保護者)から好意的な意見、感想を頂き、充実したプログラムが実施できたと感じています。

保護者の方からも「博物館の仕事も、日本画の材料技法、そして日本画自体にもふれる機会がほとんどありませんでした。日本の伝統的な芸術にふれ、それを業とする方々から直接話をうかがったことは子どもにとってよい経験になったと思います。」「日本画を描く機会が身近にはなく、絵画を見たり描いたりできるということで楽しみにしてまいりました。中学生向けということでしたがとても本格的で保護者も楽しく過ごさせて顶きました」「キュレーターの外側の仕事だけでなく、学芸員など内側の仕事を知ることができました。豆うちわの製作もとても楽しかったです」「時間的にも充実したプログラムでした。保護者の私でも充分楽しく理解できました。楽しい時間でした。」「美術について、学芸員さんという仕事についてたいへんわかりやすく、そして観察に体験の手配もすばらしく、受験期ではありますが参加させてよかったと思います」「高価な材料を使うことができ、本物の良さが伝わりよかったです」等の感想を頂きました。プログラム終了後に希望者向けに実施した博物館バックヤードツアーも、普段は入ることができない収蔵庫などが見学できたと好評でした。

学生に、スタッフとして子どもと接する機会を提供できたこと、現職の学芸員や美術館職員と子どもたちとの間でもコミュニケーションが生まれた点も、貴重な成果であったと思います。

「教えて下さる方がみな楽しそうだったのがよかったです」という保護者の方の感想も、とても励みになりますが、他方、「修復に特化したプログラムがあればうれしいです」との感想もありました。今後の発展性としては、博物館資料の活用と保存のバランスの問題をテーマに盛り込むなどの工夫が考えられます。例えば、近年、博物館への導入が進んでいる「触る展示」(活用)とそのメンテナンス(保存)に関するプログラムを導入するなど、テーマが明快でわかりやすく、かつ専門的で難しい内容でも受講生が失敗を恐れずに参加体験できるようなプログラムを開発したいと思います。引き続き、博物館における専門的な活動内容をいかに噛み砕いて受講生にわかりやすく伝えることができるか、を今後の課題としたいと考えます。

【実施協力者】 5名

【事務担当者】 高橋 久美子 研究推進部 研究支援課 係長